

科目ナンバリングコード	MdmZ243101	授業科目名	新世代マンガ総合講座 1		
担当教員名	田中 圭一				
履修可能開始学年	2年	単位数	2.0単位	授業区分	週間授業
開講年度	2026年度	開講学期	2026年度1Q、2026年度2Q	開講曜日・講時	火曜6限
主要授業科目		クォーター開講科目		セメスター開講科目	

科目分類	ストーリーマンガ・新世代マンガコース 専門科目（選択）	抽選科目		教室	
授業形態種別	講義	授業実施形態			
相関するDP(カリキュラム年度2017-2020)					
相関するDP(カリキュラム年度2021-)	DP-1 知識と理解	DP-2 創造的思考と考察	DP-3 技術と表現	DP-4 他者理解と協働	DP-5 社会への関心と行動
相関の有無	●		●		

科目ナンバリングの説明ページへのリンク	https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html	ディプロマポリシー（DP）の説明ページへのリンク	https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html
---------------------	---	--------------------------	---

サブタイトル
ネットと連携してマンガを創り伝播させる時代、その仕組みを知ろう
授業の目的・到達目標 <p>(1)マンガを取り巻く最新の情報からトレンドやビジネスの方向性を知ることができる。</p> <p>(2)作品発表の多様性を知ること自身創作におけるアウトプットの手法を身につけ、説明することができる。</p> <p>(3)読者、視聴者を意識した作品創り、そのメソッドを知ることにより多くの共感を得る作品が創作できる。</p>
授業の概要 <p>SNSを使った成功例、成功者を数多く紹介する。それがどのようになされ、どのように効果的だったのかを数値なども交え解説する。</p> <p>日々変わっていくネットでの成功事例、その最新事情を分析して、今後なにに備えるべきかを考えさせる。</p> <p>これらのノウハウを踏まえて、ネットで影響力を持つためのコンテンツを作成して発信してみる。（マンガに限らず、イラストや文章でも可）</p>
実務経験／実践的教育 <p>SNSを使って創作物を伝播させCtoCでマネタイズする実務経験を有する教員がその経験を活かし担当する授業科目です【実務経験／実践的教育】</p>
授業計画 <p>第1回 SNSをどう活用するか？実生活から創作まで。</p> <p>第2回 大橋隆史さん特別講義 映像表現の可能性と映像製作の秘伝</p> <p>第3回 SNSで成功したマンガに共通の魅力とは？ブログ全盛期から続くネットカリスマが持つ力とは。</p> <p>第4回 楓子先生特別講義 CtoCで成功した卒業生から学ぼう</p> <p>第5回 SNSマンガ、そのマネタイズ。3,000人の固定ファンが生活を支えてくれる。</p> <p>第6回 山科ティナさん特別講義 SNSを駆使したマンガの広報戦略</p> <p>第7回 SNSの問題点と、その対策。炎上や凍結を回避するには。</p> <p>第8回 ネットにアップするマンガと紙のマンガ、どこが違うの？</p> <p>第9回 田中ユタカ先生特別講義 SNSで成功した人から話を聞こう</p> <p>第10回 緒方てい先生特別講義 サブスクでのマネタイズ、その成功者から学ぼう</p> <p>第11回 エッセイマンガ、身の回りの「あるある」がなぜ大切なのか</p> <p>第12回 伊藤剛特別講義 マンガ研究から生み出される演出ノウハウ</p> <p>第13回 丘丘特別講義 キャラクター研究とVTuberの舞台裏を知ろう</p> <p>第14回 出版社を介さないマンガ発表のスタイル</p>
授業外学習の指示（予習・復習・課題等）

単位制度の趣旨に則り、次に示す授業外学習(自学自習)時間が必要です。 【1単位につき週あたりに必要な自学自習時間】 クォーター科目：講義・演習 4. 時間、外国語・実習 2.5時間／セメスター科目：講義・演習 2.25時間、外国語・実習 週1.25時間 ※2単位科目の場合は上記を二倍、3単位科目は三倍してください。また、演習科目はカリキュラム年度によって授業時間と自学自習時間の配分が異なりますので、シラバスや科目担当者の授業内での指示に従ってください。この科目では授業外学習として、以下の内容に取り組んでください。

予習よりも復習を中心に週2.25時間の授業外学習が必要である。ネットマンガやSNSでの人気作品について、その共通項を調べておくこと。また、SNSのトレンドや潮流をレポートしておくこと。同時に関連サイトやコンテンツに目を通しておくこと。

評価方法・評価基準

7回目・14回目にレポート提出を義務付ける。講義によって身についたものについてまとめること。(50%)
レクチャーを受ける姿勢が適切であるか、アウトプットが具体的に出来ているかどうか。(50%)
課題のクオリティは基より、授業への取り組み方を重視し、総合的に評価する。

履修条件・留意点及び受講生に対する要望

筆記具、ノートPCまたはスマートフォンは各自毎回持参。
授業は毎回出席を原則とし、授業開始5分前には席に着くようにする。
遅刻した者は理由を報告する。報告無き者は欠席扱いとなる。

購入必須テキスト

参考文献・作品等

課題によってその都度指示する。

参考WEBサイト（サイト名・URL）

課題によってその都度指示する。